

みずなみ市民ワークショップ

報告書

目次

みずなみ市民ワークショップ概要	1
話し合いの経過	2
各地区からの提案	
○瑞浪地区からの提案	5
○土岐地区からの提案	13
○明世地区からの提案	21
○稲津地区からの提案	27
○陶地区からの提案	33
○日吉地区からの提案	39
○釜戸地区からの提案	45
○大湫地区からの提案	51

平成24年11月6日

～みずなみ市民ワークショップ概要～

(1) 概要

構成：公募及び団体推薦による市民

目的：市民の意見を地域のまちづくり構想に反映する。

内容：地域の将来のまちの姿について検討を行うために、地域別にワークショップを開催する。多様な市民が同じテーブルにつき地区の現状と課題、目指すべき地域の姿、役割分担について話し合いを行い、今後のまちづくりへの期待や展望を共有し、地域別将来像の提案を行う。

回数：ワークショップ4回、中間発表会1回、市民フォーラム1回

(2) 全体スケジュール

回	開催時期	内容	備考
第1回 (全体)	7月24日 (火)	オリエンテーション 地区の良い点・悪い点を整理し、 まちづくり課題を抽出	会議の目的・役割の共有化 まちづくり課題の抽出
第2回 (地区別)	8月	地区の将来像の提案	各地区の将来像を検討
まちづくり 講演会 中間発表会	8月31日 (金)	まちづくり講演会 中間発表	公開での発表会
第3回 (地区別)	9月	重点課題の解決策と市民と行政 との役割分担	重点課題の解決に向けて、優先 順位と役割分担について 検討
第4回 (地区別)	10月	報告書のとりまとめ	
まちづくり フォーラム	11月6日 (火)	地区報告の発表 意見交換会	公開での発表会

～ 話し合いの経過 ～

第 1 回

- 第 1 回のグループワークでは、8 地区が一同に会して開催しました。
- 「地区の良い所、悪い所を見つけよう！」をテーマとして話し合いました。
- 参加者が住んでいる地区に関して、良い所や悪い所の意見を出し合い、話し合いを通して内容を整理・分類し、まちの特徴をあらわすキーワードとして整理しました。
- そのあと、これからの地区にとって重要な課題である「重点課題」を抽出しました。
- 話し合った結果を地区ごとに発表し、どの地区にどのような課題があるのか、情報を共有しました。

第 2 回

- 第 2 回は、地区ごとに開催しました。
- 「10年後のわたしたちのまちの姿」について意見を出し合いました。
- 出された意見をキーワードで整理し、地区の将来像をわかりやすいキャッチフレーズとしてまとめました。

中間発表

- 中間発表では、地区ごとに、第 2 回までの話し合いの結果を報告しました。
- 各地区とも、スライドを利用して、地区の現状（良いところ悪いところ）や地区の将来像を発表しました。
- 各地区の発表ののち、鈴木先生（愛知大学地域政策学部 教授）による講評をいただき、まちづくり講演をしていただきました。



第3回

- 第3回も、地区ごとに開催しました。
- 第2回目までに整理した重点課題を解決する取り組みのアイデアを皆で出し合いました。
- 出されたアイデアを課題別に整理し、それぞれの目的や取り組み内容、住民と行政との役割分担について、皆で議論をしました。



第4回

- 第4回 では、「提案のとりまとめをしよう！」をテーマに、これまで話し合ってきたまちづくり提案を整理し、報告書としてとりまとめました。
- これまでの検討過程ででてきた、メンバーの提案に対する思い入れを、各グループの提案の前文として取りまとめました。



～ 瑞浪地区からの提案～

瑞浪地区

「土岐川に笑顔のあるまち」

メンバー

【リーダー】
長瀬 貞次
山田 照代
加藤 勝郎
野村 正実
保母 絏一

【サブリーダー】
比留間 孝
伊藤 猛司
伊藤 道廣
辻 正之
河口 敦子

今井 徳彦
桐井 康仁
加納 常男
宮地 正治
本荘 美樹



私たちは、瑞浪地区の将来のまちづくりについて、ワークショップによる話し合いを4回開催し、話し合ってきました。

瑞浪地区の状況を整理すると、地区には、中心市街地があり施設も多く環境が良い、地区の住民同心の人間関係も良好、土岐川をはじめ自然が豊富にあるなど、良い所はたくさんあります。反面、子どもや若者の姿が少なく活気がない、道路の草刈りがされていない、生活マナーが悪くなってきたなど、もう少し工夫や努力をすれば、もっと良くなると思うことも、まだまだたくさんあることが分かりました。

私たちは、いくつかある課題の中から、『3つの重点課題』を導き出し、地区の10年後の将来像を『土岐川に笑顔のあるまち』と定め、課題解決に向けた具体的な取り組みを、市民目線で話し合い、検討し、『4つの提案』として取りまとめました。

私たちは、今後この提案の中から、市民と行政が協力して、できることから順に実現をしていき、瑞浪地区がもっと良い、住みよいまちになることを望んでいます。

土岐川に笑顔のあるまち

重点課題

活性化

環境

人間関係

取り組みの方向性

活性化するために、
やる気を起こすみずなみの
「かぜ」を吹かせよう

いろいろな観光イベントを開催する
空き店舗を活用する

土岐川沿いの環境を活用して
地域内外の交流を深めよう！

市役所周辺の土岐川沿いを景観
地区にする
土岐川を活用した散策路をつくる
マレットゴルフ場を開設する

三連動地震に
備えたまちづくり

大地震発生を想定した、行政と
市民の役割を明確にした対応策
をつくる
防災訓練を実施する

地域の公民館を地域のサロン
(みんなの集いの場)にしよう！

公民館を活用する
地元のお店を活用する

提案 1

活性化するために、やる気を起こす
みずなみの「かぜ」を吹かせよう！

提案の概要

<p>目 的</p>	<p>市民の「やる気・元気」で瑞浪を魅力あるまち、活力があるまちにすることにより、まちの活性化につなげていく</p>
<p>内 容</p>	<p>瑞浪を魅力あるまちにするためには、市民にやる気・元気が必要です。そのためには、きっかけを作る起爆剤が必要です。そのために、2つの取り組み提案します。</p> <p>【いろいろな観光イベントを開催する】</p> <p>バサラの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 各地区で、子どもからおじいちゃんおばあちゃんまでのチーム作り、服装は普段着でもよい。課題演舞の部（瑞浪音頭をバサラ調に編曲）、自由演舞の部で各表彰。参加条件は瑞浪音頭を使用し陶器で作った鳴子を使用。 <p>グルメ大会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 卵（プリンなどのお菓子も）とポーノポーク（ハム・ベーコン含む）を使った市民参加料理コンテストを実施。「きなあた」を利用して、料理コンテストの結果と表彰。優秀作品の料理実演と試食会を行う。条件は、瑞浪の卵とポーノポーク、みずなみ焼きを必ず使用。B級グルメの開発につなげていく。 <p>芋煮会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 青少年育成のため、現在瑞浪地区まちづくが行っている、「家族ふれあい芋煮会」を瑞浪地区全体のものにしていくと同時に、クリエーションパークで働いている従業員や会社へ、「芋煮会に参加」を呼びかける。先ずつながりを作ることで雇用のかきかけ作り。 <p>瑞浪をPRする</p> <ul style="list-style-type: none"> デスモチルスやサイエンスワールド等の広告塔を作り、インターの近くや中央線沿いに設置、「瑞浪に家族で来ると」、お父さんはゴルフ、お母さんと子どもは、化石の採集から地球回廊での学習、おじいちゃんとおばあちゃんは、マレットゴルフで汗をかき、帰りはお父さんと一緒に夕食を！の「家族で遊べるまち」をアピール。 <p>【空き店舗を活用する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の空き店舗、空き家、土地を活用し市民、学生、高齢者の交流の場や商店などを造り、交流を図る。 夢ですが、瑞浪駅周辺にツインビルを建設。ツインビル内には、商店・医療・教育・子育て・介護・一生の住まいを設置し、商店街の縦横一括のリストラクチャリングを計る。 魅力あるまちづくりで、雇用増進、Uターン、持ち家で人口増加、やる気・元気でまず一歩、みずなみの「かぜ」を吹かせよう！

協働の考え方

<p>市民の役割</p>	<p>どんなかたちでもよい、とにかく協力と参加。 計画策定に参加する。 準備協議会に参加する。</p>
<p>行政の役割</p>	<p>整備計画策定し、必要な法定手続きや施設の整備を行う。 パンフレットを配布したり広報誌でPRしたりする。</p>
<p>連携方法</p>	<p>準備協議会を設置、各階層から協議委員を選出する。 行政も市民も学校もできることからまず一歩を踏み出す。</p>

提案 2

土岐川沿いの環境を活用して
地域内外の交流を深めよう！

提案の概要

目的	市役所、図書館、厚生病院の近辺は市の文化・行政の中心であり、そこを流れる土岐川やその兩岸の桜の並木通り一帯や酒蔵始祿から奥に入った旧街道筋の町並みを活かして、地域住民の憩いの場とするとともに、市外からの交流の場とする。
内容	<p>【市役所周辺の土岐川沿いを景観地区にする】</p> <p>土岐川兩岸の道路、河川敷、橋など再整備し、古い町並みを保存・整備し、旧宿場町とは一味違った、交通・生活の利便性を備え洗練された独自の景観を形成する。</p> <p style="text-align: center;">＜景観地区に向けた具体的な整備イメージ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土岐川岸の桜の並木通りカラー舗装化 ・ 土岐川河川敷、万尺川の自然環境、小里川合流点の整備の整備 ・ 河川敷散歩道の延長 ・ 旧町並みの家屋の保存・補修 ・ 始祿前の橋の改修 <p>【土岐川を活用した散策路をつくる】</p> <p>松ヶ瀬橋、瑞浪橋、竜門橋、明德橋を巡るコースを設定し、四季折々の花を楽しむ草木を植えた遊歩道とする。</p> <p>土岐川の化石、自然遊歩道、小田の山の散策路等で、市外者の来市、および地域の連帯感を図る。</p> <p>【マレットゴルフ場を開設する】</p> <p>高齢者の軽スポーツとしてマレットゴルフが最適なので、市街地から近い小田町の市有地に、マレットゴルフ場を開設し、高齢者の交流の場をつくる。</p>

協働の考え方

市民の役割	<p>計画策定に参画する。</p> <p>花を植えたり、草刈りをしたり、施設の維持管理に参画する</p> <p>家族イベントを行ったり、おみやげ品を考えたり集客方策を考える。</p>
行政の役割	<p>整備計画策定し、必要な法定手続きや施設の整備を行う。</p> <p>パンフレットを配布したり広報誌でPRしたりする。</p> <p>小学校の授業で化石発掘体験したり、花苗を配布したりする。</p>
連携方法	<p>実行計画に住民も参画し、住民と行政の打ち合わせを密に行う。</p>

提案 3

三連動地震に備えたまちづくり

提案の概要

目 的	大地震発生を想定して、行政と市民の役割を明確にした災害時対応を策定する。
内 容	<p>【大地震発生を想定した、行政と市民の役割を明確にした対応策をつくる】</p> <p>迅速かつ適切な対応を取り、被害を最小限に抑え、被災後の混乱を避け、復旧を早められるように、大地震発生を想定した、行政と市民の役割を明確にした対応策をつくる。</p> <p>この対応策を公表（広報だけでなく自治会等による周知徹底）することによって、一般市民にいざという時の心構えを醸成する。</p> <p>自治体組織の役割が明確になることにより、自治体内での互助の意識が育まれ、さらには自治会加入率の増加も期待できる。</p> <p style="text-align: center;">＜対応策の策定の具体的なイメージ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 被害程度を2～3段階程度に分け、それに応じた対応策を策定する。 ・ 災害の時間経過に対応した対応策を策定する。 ・ 救助、情報連絡網（行政 自治体 個人）緊急物資保管、救援要請、市内各地区の連絡・協力体制の確立、他地域との相互支援契約等、に関して詳細な計画を策定する。 ・ 行政と自治会との役割分担を明確にする。 <p>【防災訓練を実施する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各人の災害時の役割を確認するために、町内会等の小さな単位での防災訓練を実施する。

協働の考え方

市民の役割	<p>自らの命は自ら守る、といった自助の意識を高める。</p> <p>自治会内（自治会に未加入の世帯も含む）の役割の明確化。周知徹底方法の強化。</p>
行政の役割	<p>緊急物資確保。自治会との連絡方法確立。他地域との相互支援協定の締結。緊急対応体制の確立。</p>
連携方法	<p>行政と自治会（代表）との緊急対応策検討 素案作成 パブリックコメントによる意見聴取 見直し。</p>

提案 4

**地域の公民館を地域のサロン
(みんなの集いの場)にしよう！**

提案の概要

目 的	公民館を地域住民である、お年寄りから子どもまでの交流拠点として活用する。交流の場として、地域住民のふれあいを深める。
内 容	<p>【公民館の活用】</p> <p>現状の公民館は、開放されていますが、役員会やイベントで使用されているだけでほとんど空いている。</p> <p>そこで、地域の公民館を「地域サロン」として、平日・休日の区別なく地域の活動の場として活用する。</p> <p style="text-align: center;">＜公民館活用の具体的なイメージ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人材資源を活用して・・・ <ul style="list-style-type: none"> 地域サロン運営推進会議を設置する。 高齢者の健康相談会（認知症とかいきいきサロン等）を開催する。 防災について勉強会を開催する。 男の料理や婦人会（復活）活動を開催する。 高齢者が先生となり子どもたちに竹とんぼづくり教室を開催する。 空き家再生利用検討会を開催する。 土岐川活用方法（サイクリングロードの設置・美しくするために桜並木の整備）会議を開催する。 地域の子どもたちを対象に、万沢川の源流と昆虫の研究会を開催する。 <p>【地元のお店の活用】</p> <p>会議等開催するときのお茶や菓子は、地域のお店を利用する。</p> <p>地域にお店がない時は、隣地域のお店を利用する。</p> <p>必要な材料はできる限り地域のお店から購入する。</p> <p>必要な材料が地域のお店で揃うように、お店 MAP をつくる。</p>

協働の考え方

市民の役割	<p>地域サロン運営推進会議は自治会役員と連携を密にして・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアとして、企画・運営・管理などに参加する。 ・ 回覧板やグループメール機能を使って催し物を案内する。 <p>日頃の住民同士のコミュニケーションが重要</p>
行政の役割	<p>必要な人材資源やもの、そして必要な情報を提供する。</p> <p>広報誌に掲載したり、ときには一緒に参加したりして、住民との情報交換を密にする。</p>
連携方法	住民と行政で構成する「地域サロン運営推進会議」を設置する。

～ 土岐地区からの提案～

土岐地区

「ふれあいのまち、土岐のまち」

メンバー

【リーダー】	【サブリーダー】	
大久保 京子	小木曾 正治	大久保 義弘
只腰 正知	加藤 満	日比野 修三
遠山 信治	辻本 紀み子	中尾 裕一
小栗 吉彦	大塚 富也	桑原 幸男
田中 宜子	後藤 武久	



私たちは、土岐地区の将来のまちづくりについて、ワークショップによる話し合いを4回開催し、検討してきました。

土岐地区には、屏風山に代表される自然が豊富で、文化財や史跡も多く、また「きなあつ瑞浪」といった市内外から人で賑わう場所があるなど、良い所はたくさんあります。反面、世代間のコミュニケーションが不足していたり、若者が少なくなっていたり、道路沿いにゴミが落ちていたりなど、もう少し工夫や努力をすれば、もっと良くなると思うことも、まだまだたくさんあることが分かりました。

私たちは、いくつかある課題の中から、「自然と歴史」「教育・生涯学習」「世代間コミュニケーション」を3つの重点課題として導き出し、地区の10年後の将来像を『ふれあいのまち、土岐のまち』と定め、課題解決に向けた具体的な取り組みを、市民目線で話し合い、『5つの提案』として取りまとめました。

私たちは、今後この提案の中から、市民と行政が協力して、できることから順に実現をしていき、土岐地区がふれあいのある、住みよいまちになることを望んでいます。

将来像「ふれあいのまち、土岐のまち」

重点課題

自然と歴史

教育・生涯学習

世代間コミュニケーション

取り組みの方向性

課題解決のアイデア

自然と歴史

知り、そして伝える
土岐の自然と歴史

教育・生涯学習

まちかど楽校（楽しい学校）

世代間
コミュニケーション

農業と介護を活用した交流
促進

住民全員参加の
まちづくり

土岐地区「まちづくり会社」の設立

提案 1	知り、そして伝える 土岐の自然と歴史
-------------	---------------------------

提案の概要

目 的	<p>地区内の人に土岐の自然と歴史を知ってもらい、地区住民が土岐地区の良さを再認識するとともに歴史を伝承する。</p> <p>地区外（市外）の人に來てもらい地域を活性化させる。</p>
内 容	<p>地区内の人に知ってもらう取組み</p> <p>地区内の人に土岐の歴史を分かりやすく知ってもらうため、土岐歴史年表を作成する。また、風化する史跡を保全・整備する。</p> <p>土岐歴史年表の作成 史跡の保存・整備</p> <p>地区外の人に來ってもらう取組み</p> <p>地区外の人に土岐の歴史等をきっかけに來てもらえるよう、歴史ウォーキングイベントを開催する。楽しいイベントとなるよう、語りべや案内板を充実する。</p> <p>歴史ウォーキングコースの設定（1日（半日）コース、地域別コース） 語りべの育成（地域の高齢者等を観光ボランティアとして育成） 案内板の設置等</p> <p>市外の多くの人に來ってもらう取組み</p> <p>将来的な目標として、市外からも多くの人が來てもらえるよう、JRさわやかウォーキングへの参加を目指す。</p> <p>JRさわやかウォーキングへの参加</p>

協働の考え方

市民の役割	<p>年表の原案作成</p> <p>ウォーキングコースの設定</p> <p>語りべの育成</p> <p>掲示板の設置（行政補助）</p> <p>JRさわやかウォーキングへの参入</p>
行政の役割	<p>年表の印刷</p> <p>情報の発信支援（HP等）</p> <p>イベント等での施設利用（きなあつ瑞浪、美濃焼プラザ）</p>
連携方法	<p>年に数回の会合をもち、管理、整備、情報発信について話し合う</p>

提案 2

まちかど楽校(楽しい学校)

提案の概要

目的	民、産、学、官の連携し、生涯学習の場を創出することで、市民生活や教育水準の向上を図り、生涯現役のまちを目指す。
内容	<p>土岐地区全域をキャンパスにした「教え・教わる場所～まちかど楽校」の開校</p> <p>趣味や学業・職業など、身近な題材から専門的な内容まで、多岐にわたる各個人のスキルアップを目的とした講座を用意し、気軽に受講できる「楽校」を地区内全域で開校する。</p> <p>地区内各区の公民館や公共施設、賛助企業に最低1講座を設け、体験学習、野外講座なども行う。</p> <p>講師には、地区内の大学・高校・小中幼保の先生や学生、スポーツ・文化の指導者や芸術家など、様々な分野で専門知識・技術を有する人に依頼する。</p> <p>教える・教わる側ともに年齢性別を問わず、地区民の誰もが参加、利用できる場所を創り、世代間コミュニケーションの活性化を図る。</p>

協働の考え方

市民の役割	多数の方の参加をお願いする。 企画構成を行う。
行政の役割	場の提供 案内、チラシ等の作成 運営補助
連携方法	このための検討委員会を設置し連携

提案 3

農業と介護を活用した交流促進

提案の概要

目的	<p>< 農業 ></p> <p>高齢者の豊富な農業技術を次世代に継承 高齢者が活動できる場を提供 若年農業関係者（趣味）の技術向上</p> <p>< 介護 ></p> <p>市内における介護施設の入居者と土岐町内学生の交流 将来の介護施設への従事者の増加</p>
内容	<p>チャレンジ農園の開園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も増加が懸念される休耕田を農業に関心のある方が利用できるチャレンジ農園として貸し出す。 ・あわせて高度な農業技術を持つ高齢者が、農業経験の浅い農業指導を行う。 <p>介護施設の高齢者と若年層の交流促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土岐地区内（保育園・小中学校・高校・大学）学生の活用し、介護施設の高齢者との交流を促進する。 ・交流を通じ他人の立場の理解できる人間形成に寄与するとともに、将来、介護施設を就職先として身近に捉えることができる若年層が増え、介護従事者の増加が期待される。

協働の考え方

市民の役割	<p>高齢者の中から高度な農業技術者を派遣 幼稚園、小中大学生の派遣</p>
行政の役割	<p>休耕田の調査</p>
連携方法	<p>土岐町長寿会及び各学校とのネットワーク確立</p>

提案 4	住民全員参加のまちづくり
-------------	---------------------

提案の概要

目 的	<p>現在のまちづくり組織を活性化し、住民間の交流を促進するとともに、多くの住民がまちづくり活動に参加することを目的とする。</p> <p>また、まちづくり活動を通じ、住民それぞれの立場から自分の住んでいるまちを考え、行動していける人づくりを目指す。</p>
内 容	<p style="text-align: center;">まちづくり組織の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小、中、高、大、一般から広くメンバーを募り、自然と環境を守る活動や環境美化に取り組みにより、まちをより良くするとともに、その活動を通じ交流を深める。 ・ 世代毎に地区の課題等を話し合う会を設け交流を促進する。(小学生、大人) ・ 世代毎の活動だけでなく、世代間の活動を実施し交流を促進する。 <p style="text-align: center;">まちづくり活動拠点となる施設の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土岐地区には、住民同士が気軽に利用できる公民館施設が不足しており、まちづくり活動の拠点となる施設を確保する。

協働の考え方

市民の役割	<p>まちづくり組織の拡充 まちづくり参加と活動への寄与 交流を重ねて出てきた事業には積極的に参加する</p>
行政の役割	<p>まちづくり活動拠点となる施設の確保(コミュニティーセンター建設もしくは代替建物) まちづくり活動への補助</p>
連携方法	<p>建物の維持管理を住民と行政で折り合いをもっておこなっていく 土岐地区内への告知とサークルの認知度UPで連携を深める。 課題は運営組織とその方法</p>

提案5	<h2>土岐地区「まちづくり会社」の設立</h2>
------------	---------------------------

提案の概要

目的	<p>土岐地区で行われる様々な地域活動や、住みよいまちづくりを実現するための活動拠点となる場所、組織（会社）を設立し、地域コミュニティの活性化 安心して暮らせるまちづくり 地場産業の育成と新たな創出 民産学官の連携を推進する。</p> <p>また、住みよいまちづくりを第一義に考えた活動の基盤を、ボランティアや行政に頼るだけでなく、「まちづくり会社」として自立し、自らの事業に収益を求め、そこで得た利益は、地区民や企業、学校へ還元することを目的とする。</p>
内容	<p>地区内（市内）の空き家、空き店舗や倉庫、耕作放棄地、公共施設などを活用して、施設・設備に係わる費用の負担を軽減し、「まちづくり会社」収益事業の展開と町内ベンチャー企業の支援を行うことにより、地区内の雇用創出を図る。</p> <p>また、地区民・企業・学校・行政による「協働参画型事業」の企画・運営を行い、収益事業だけでなく、住民参加型イベントを企画することにより、地域コミュニティ「顔の見える人間関係（組織）」をつくりあげる。</p> <p>地域資源（人・もの・自然）を活かした「共働参画型事業」の企画・開発には地区民や生徒、学生も参加し、学校や専門機関（行政）からの助言と指導を仰いで商品の生産を行い、地区内企業や行政の協力を得て商品のPR、販売を行う。</p> <p>地区内に住む、得意分野（技能、知識など）を持った方や定年を迎えた方々で構成する「生涯現役！人材マップ」を作成し、有償サービスや高齢者、障がい者への有償サポートを提供する。</p> <p>地区内の個人生産者が生産する農産物、加工品などの情報を一元化し、個人生産者の支援（集荷、生産・販売指導）を行う。「きなあつ瑞浪」「給食センター」などへの販売を促進するとともに、地区内の食物生産量を増やし、災害に強い「自給自足率100%」のまちづくりを目指す。</p> <p>放課後児童クラブや児童デイサービスを運営し、働くお父さんお母さんを支援する。</p>

協働の考え方

市民の役割	顔の見える人間関係（地域コミュニティ）をつくる 事業へ関心を持って積極的に参加し、その対価を得る
行政の役割	情報収集と発信、事業への支援（各地域・各種団体・企業との調整、申請書類の作成・手続など）
連携方法	支援職員の派遣、公共施設の開放

～ 明世地区からの提案～

明世地区

「化石と自然に恵まれた地域のつながりで子育てする元気なまち『あきよ』」

メンバー

【リーダー】	【サブリーダー】	
金森 正之	松原 孝文	伊藤 正隆
奥村 好次	大竹 靖朗	河村 純子
森 孝浩	松原 佐代子	伊藤 寿子
伊藤 みゆき	加藤 美知代	大森 やすえ



私たちは、明世地区の将来のまちづくりについて、ワークショップによる話し合いを4回開催し、検討してきました。

明世地区の状況を整理すると、地区には、市民公園など市民の憩いの場、体育館などスポーツ施設が充実していたり、瑞浪ICが地区にあり交通の便が良かったり、良い所はたくさんあります。反面、地区内での交流が少なかったり、町民の行事への参加意欲が低くかったり、人と人の交流の面などでもう少し工夫や努力をすれば、もっと良くなると思うことも、まだまだたくさんあることが分かりました。

私たちは、いくつかある課題の中から、『4つの重点課題』を導き出し、地区の10年後の将来像を『化石と自然に恵まれた地域のつながりで子育てする元気なまち『あきよ』』と定め、課題解決に向けた具体的な取り組みを、市民目線で話し合い、検討し、『3つの提案』として取りまとめました。

私たちは、今後この提案の中から、市民と行政が協力して、できることから順に実現をしていき、明世地区がもっと良い、住みよいまちになることを望んでいます。

化石と自然に恵まれた地域のつながりで子育てする 元気なまち『あきよ』

重点課題

公共施設の充実

人の交流

交通アクセス

環境

取り組みの方向性

～子どもたちをみんな
なで育てる～
の日を「明世地区ふ
れあいの日」にしよう

幼稚園の充実

交通アクセスの利
便と騒音・事故は
「諸刃の剣」

施設を開放する

施設を活用する

施設で交流する

児童の子育て支援

乳幼児の子育て支
援

国道 19 号の安全確
保

瑞浪インターチェ
ンジの活用

明世地区に不足している『人々の交流・和』を広げていくために・・・

提案 1

～子どもたちをみんなで育てる～
 の日を「明世地区ふれあいの日」にしよう

提案の概要

目 的	子育てを中心にして、人々の交流・和を広げる。
内 容	<p>【施設を開放する】 みんなで子育てをするまち・老若男女全ての人々とのふれあいの場をつくるために、市体育館、運動場、公園等、瑞浪市の施設を開放してもらう。</p> <p>【施設を活用する】 区内の行事は定着しているが、明世町の行事に対する関心がまだ低い ため、今後、その壁をとりはらうために市の施設を活用する。 子育て中の母親の悩みを解決、サポートする場として、地域全体で育んでいく。 老若男女それぞれに適したスポーツ交流を深める。(茶のみクラブでもOK！) 趣味のクラブを充実させ、まず小さな輪をつくっていく。 三区のふれあい夏祭りや、ラジオ体操、ウォーキング等、全員が参加できる行事を充実する。</p> <p>【施設で交流する】 P T Aと先生の交流機会を増やす。</p>

協働の考え方

市民の役割	区長会、まちづくり推進協議会を軸に、各部会にそれぞれの世代代表者を交えた協議会により、種々の企画・立案を行い、ボランティアなどの協力も得て運営する。
行政の役割	市の諸施設の無料開放や協議会の支援、情報のP Rを行う。
連携方法	企画立案から住民と行政がともに参加・連携する協議会をもち、明世町の和を育んでいく。

明世地区の素晴らしい『公共施設』を活かしてよりよい地区にしていくために・・・

提案 2

幼稚園の充実

提案の概要

目的	働く人の子育てを応援する。
内容	【児童の子育て支援】 放課後児童クラブについて、現在は学校から離れており、移動に時間がかかったり、付き添いが必要だったりする状況のため、保護者が安心して預けられるような場所への移転を検討する。
	【乳幼児の子育て支援】 乳幼児も預けられるような場所（施設）を確保する。 子育ての相談ができるような環境づくりを進める。

協働の考え方

市民の役割	ボランティア団体等による放課後児童クラブの運営の支援、補充をおこなう。種々の協力や支援により働く人たちを応援する。
行政の役割	施設の整備。(明世小学校体育館の近くなどを検討する)
連携方法	住民と学校が連携して、安全・安心して子どもたちを預かる。働いている子育て中の家庭を応援する。

明世地区で人にやさしい『道路環境』を整えるために・・・

提案 3

交通アクセスの利便と騒音・事故は「諸刃の剣」

提案の概要

目的	傍若無人に速度超過する車から、高齢者や子どもたちの安全を確保する。
内容	【国道 19 号の安全確保】 19号バイパスは、流通や移動のための道路として位置付ける。 旧19号は地域優先の生活道路として位置付け、歩行者、特に高齢者や子どもたちが安全に通行できるよう、速度制限を見直す。(40km/h とするなど)
	【瑞浪インターチェンジの活用】 化石採取場に駐車場とトイレを設置する。 瑞浪インターチェンジ付近の更なる開発で、市外からの集客力を高める。

協働の考え方

市民の役割	旧19号沿線の他地区との協議をする場をつくり、各地区の悩み（課題）などを話し合い、共有する。
行政の役割	行政の課題認識としてあげてもらい、他地区との連携・調整や岐阜県などへの折衝役を担う。
連携方法	住民だけでは解決が困難な法律上の問題点などについて、行政のバックアップを得て進める。

～ 稲津地区からの提案～

稲津地区

「いなつの宝で笑顔のまちづくり」

メンバー

【リーダー】

大島 強

稲葉 俊光

大島 直也

小林 由和

【サブリーダー】

和田 千津代

今井 収

和田 建司

川崎 恵里

北野 文夫

小林 秋博

三輪田 幸泰



私たちは、稲津地区の将来のまちづくりについて、ワークショップによる話し合いを4回開催し、検討してきました。

稲津地区の状況を整理すると、地区には、まちづくり活動が活発で地域力があつたり、屏風山や黒の田湿地などの自然や小里城跡など地域の魅力もたくさんあるなど、良い所はたくさんあります。反面、子どもの遊び場となるところが少なかったり、他人に頼りすぎる面もあるなど、もう少し工夫や努力をすれば、もっと良くなると思うことも、まだまだたくさんあることが分かりました。

私たちは、いくつかある課題の中から、『3つの重点課題』を導き出し、地区の10年後の将来像を『いなつの宝で笑顔のまちづくり』と定め、課題解決に向けた具体的な取り組みを、市民目線で話し合い、検討し、『3つの提案』として取りまとめました。

私たちは、今後この提案の中から、市民と行政が協力して、できることから順に実現をしていき、稲津地区がもっと良い、住みよいまちになることを望んでいます。

「いなつの宝で笑顔のまちづくり」

重点課題

地域力

子どもの公共設備を図る

財産の活用を図る

取り組みの方向性

地域（高齢者）のパ
ワーをまちづくりへ

ボランティア情報
を見える化する

サポーターバンク
制度を創設する

ボランティア保障
制度を創設する

子どもも大人も楽し
める公園を作ろう！

子どもの遊び場づ
くり

大人の憩いの場づ
くり

住民の安心の場づ
くり

休耕田を活かした
まちづくり

貸してくれる休耕
田を探す

市民農園として休
耕田を使う

休耕田で農業を教
える

稲津地区の素晴らしい『地域力』をよりよくしていくために・・・

提案 1

地域(高齢者)のパワーをまちづくりへ

提案の概要

<p>目的</p>	<p>まちづくりが活性化し、持続可能なまちづくりを行っていくための仕組みづくりを行う。 まちづくりを中心に、現在ある30団体が、何か1つに参加でき、ボランティアの数が増えるように、新たな取り組みを導入する。</p>
<p>内容</p>	<p>【ボランティア情報を見える化する】 まちで困っている人や困っている内容などの情報がなく、ボランティアをしたくてもできない状況となっている。 そこで、『どこで』『いつ』『誰が』『何に困っているのか』といった情報を、地域住民がみられるようにすることで、ボランティア活動を促進する。 情報を掲示する場所は、公民館などで紙による掲示から始め、ゆくゆくは、インターネットなどで簡単に閲覧できるようにする。</p> <p>【サポーターバンク制度を創設する】 住民1人ひとりの得意分野を登録してもらい、必要な人材を確保する。 募集方法を見直し、心に届くPRを行う、あなたが必要と思わせる工夫を行う。</p> <p>【ボランティア保障制度を創設する】 ボランティアに参加しても、事故や怪我の対応は、個人責任になっていて、それが、ボランティア参加に二の足を踏んでしまう傾向もある。 そこで、保険や経費など安心して気持ちよくボランティアに参加できる仕組みをつくる。</p>

協働の考え方

<p>市民の役割</p>	<p>ボランティアとして参加する。 より多くのボランティアに参加してもらいたい</p>
<p>行政の役割</p>	<p>保険料の補助をお願いする。(ボランティアに対して)</p>
<p>連携方法</p>	<p>行政に関心を持つ</p>

稲津地区に不足している『子どもの公共施設』をよりよくしていくために・・・

提案 2

子どもも大人も楽しめる公園を作ろう！

提案の概要

目的	学校から帰った後の子どもの遊び場がなく、道路でのキャッチボールや追いかっこが危険なので、子どもたちの遊び場づくりとともに、地域住民が憩いの場となるような公園をつくる。
内容	<p>【子どもの遊び場づくり】 安全な子どもたちの遊び場づくりとして、地区内にある未利用地（スーパーの跡地など）を利用して、公園を整備する。 公園は、多目的広場を中心に、子ども達が遊べるような遊具も整備する。</p> <p>【大人の憩いの場づくり】 地域住民だけでなく、地域内外の人が、公園を利用して憩えるような公園とするために、自然を満喫できる遊歩道やくつろいで楽しめる芝生広場を整備する。</p> <p>【住民の安心の場づくり】 地域住民が、災害時にも安全に避難できるように、防災のための避難地として整備する。</p>

協働の考え方

市民の役割	まちづくり協議会と住民が一体となって、公園の維持管理を行う。
行政の役割	公園の整備を行う。
連携方法	まちづくり協議会が中心となって、行政と密に連絡を行う。

提案 3

休耕田を活かしたまちづくり

提案の概要

目的	<p>地区にある宝物である田んぼ。最近では、休耕田となっているところも多く見受けられる。</p> <p>そこで、地区の宝物である休耕田をまちづくりに生かして、地区を活性化させる取り組みを行う。</p>
内容	<p>【貸してくれる休耕田を探す】</p> <p>見ず知らずの個人同士では、利用できる休耕田を探すのは難しいので、まちづくり協議会が中心に支所の支援のもと、貸してくれそうな休耕田をリストアップする。</p> <p>地主と話し合っ、休耕田の利用の許可をもらう。</p> <p>【市民農園として休耕田を使う】</p> <p>貸してもらえ休耕田を、農業を体験してみたい人を対象とした市民農園として利用する。</p> <p>1区画ごとに有料で貸し出して、市内外の人も借りられるようにする。</p> <p>【休耕田で農業を教える】</p> <p>休耕田を利用した市民農園で農業をする人は、農業の素人が中心で、農業のやり方をよく知らない人が多い。</p> <p>そこで、農業のプロ（休耕田の地主さんなど）が、市民農園を借りてくれている人を対象に、農業のやり方を教える「農業教室」を開催する。</p>

協働の考え方

市民の役割	<p>休耕田を貸し出す</p> <p>市民農園を積極的に利用する。</p> <p>農業を教える。</p>
行政の役割	<p>利用可能な休耕田を探し、地主と交渉する。</p>
連携方法	<p>まちづくり協議会が中心となって、行政と密に連絡を行う。</p>

～ 陶地区からの提案～

陶地区

「陶（すえ）器文化のまち」 「支えあえる安心なまち」

メンバー

【リーダー】

伊藤 正義

福原 傳夫

長谷川 孝夫

塚本 恵子

加藤 美穂子

【サブリーダー】

水野 勝人

加藤 栄一

小木曾 光佐子

河野 順子

加藤 鉦司

築山 軍平

加藤 明代

安達 八重子



私たちは、陶地区の将来のまちづくりについて、ワークショップによる話し合いを4回開催し、検討してきました。

陶地区の状況を整理すると、地区には自然も豊富で、また、こま犬、茶つば、陶器文化を代表する登り窯など観光スポットもあり、住民同士のつながりも強く、住民のボランティア活動も活発であるなど、良い所はたくさんあります。反面、働く場所が少なかったり、お店が遠く不便であったり、町全体に元気がなかったりなど、もう少し工夫や努力をすれば、もっと良くなると思うことも、まだまだたくさんあることが分かりました。

私たちは、いくつかある課題の中から、『3つの重点課題』を導き出し、地区の10年後の将来像を『陶（すえ）器文化のまち』『支えあえる安心なまち』と定め、課題解決に向けた具体的な取り組みを、住民目線で話し合い、検討し、『3つの提案』として取りまとめました。

私たちは、今後この提案の中から、住民と行政が協力して、できることから順に実現をしていき、陶地区が陶らしく、人が人を思いやるまちになることを望んでいます。

将来像「陶（すえ）器文化のまち」「支えあえる安心なまち」

重点課題

自然観光スポット

雇用の不安

不便

取り組みの方向性

課題解決のアイデア

提案 1

大川狛犬の里構想

提案 2

ソーシャルビジネス
による雇用創出

提案 3

リニア中間駅整備
に伴う道路ネットワークの充実

陶地区の素晴らしい『自然観光スポット』を活かすために・・・

提案 1	大川狛犬の里構想
-------------	-----------------

提案の概要

目 的	<p>狛犬、茶つば、登り窯などの陶器関連の観光資源を一体のものとして環境整備するとともに「大川狛犬の里」と銘打ちPR活動を行い、年間を通じた交流人口の拡大を図る。</p>
内 容	<p>「大川狛犬の里」の一体化 現在は、それぞれ個別の資源となっている狛犬、茶つば、登り窯などを散策路のルートづくりやパンフレット作成、案内看板や歩道の整備などを行い一体的な「大川狛犬の里」として売り出す。</p> <p>「大川狛犬の里」拠点づくり 「大川狛犬の里」の拠点となる場をつくり、キャラクターグッズの販売、作陶教室、パンフレットの作成、企業の製品展示販売、空き室情報の提供（セカンドハウスの利用）を行う。</p> <p>工場跡地の景観改善 観光化にあたって問題となる工場跡地の景観を、産業廃棄物の処理等により改善する。</p>

協働の考え方

市民の役割	町民全員が陶器の知識、技術を身に付ける
行政の役割	常設建物を営業してくれる企業・団体を紹介してもらう
連携方法	まちづくり協議会を通じて行政と連携

陶地区の『雇用の不安』を取り除いていくために・・・

提案 2	ソーシャルビジネスによる雇用創出
-------------	-------------------------

提案の概要

目的	ソーシャルビジネスを活用して、陶器産業の観光利用・技術の伝承、老人福祉産業の充実を促進し、雇用の創出を図る。
内容	<p>(仮称) NPO陶職人塾(ソーシャルビジネス組織)の立ち上げ 地域課題である陶器産業の活性化に向け、陶器産業関係者などからなる NPO 陶職人塾を立ち上げ、小中学校等の学生旅行の受け入れ円滑化、職人の高度な技術伝承(金線など)を行う。</p> <p><主な活動イメージ></p> <ul style="list-style-type: none"> 観光活動 ・小中学校等の学生旅行の営業・受付(一元化) ・学生の工場への割り振り ・体験内容の企画立案 伝承活動 ・技術者人材バンク ・技術講習会の開催 福祉活動 ・福祉活動人材バンク

ありふり 協働の考え方

市民の役割	(仮称) NPO陶職人塾の立ち上げ
行政の役割	(仮称) NPO陶職人塾の立ち上げ支援 (仮称) NPO陶職人塾の運営支援
連携方法	(仮称) NPO陶職人塾運営委員会での協議

陶地区の『不便』を取り除いていくために・・・

提案 3

リニア中間駅整備に伴う道路ネットワークの充実

提案の概要

目的	リニア中央新幹線中間駅の開業により交通量の増加が期待される三河方面とのアクセス道路である国道 363 号や国道 419 号の充実による交通利便性向上とアクセス道路を活用した陶地区の活性化。
内容	<p>アクセス道路の充実</p> <p>中間駅について県内及び三河地域も視野に入れた広域アクセスの向上が必要となっており、特に中津川市～三河地域へのアクセス道路は国道 363 号及び国道 419 号が考えられることから、2 路線の充実を要望し、広域アクセスの向上を図る。(国道 363 号は中津川市～恵那市～瑞浪市～土岐市～瀬戸市～名古屋市方面へ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域市町村での道路充実の要望 ・リニア中間駅近の無料駐車場整備(広大な無料駐車場を作って乗降客を呼び込む(中津川市、恵那市、瑞浪市、土岐市、豊田市等)) <p>増加する交通量の陶への取り込み</p> <p>中津川市～三河地域へのアクセス道路は国道 363 号及び国道 419 号の増加する交通量を陶地区の活性化に取り込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿道の商業・観光施設の充実 ・ルート沿い市町村への観光 P R

ありふり 協働の考え方

市民の役割	周辺地域(特に中津川、恵那市等)の期成同盟会や考える会へ積極的に参加して、連携を深めていく
行政の役割	周辺自治体への P R とネットワークづくり 周辺地域の活動内容等の情報提供
連携方法	リニアに関する地域の活用方策の検討会の設置

～ 日吉地区からの提案～

日吉地区

「自然と歴史が豊かで老人が元気で子どもが喜びリターンが出来るまち」

メンバー

【リーダー】	【サブリーダー】	
林 孝平	古田 講造	渡邊 勝利
早川 貢治	清水 公平	堀部 誠
田中 定	大山 文成	伊藤 好典
大竹 和夫	小栗 昭治	浅井 貴美
小倉 望	小栗 正敏	



私たちは、日吉地区の将来のまちづくりについて、ワークショップによる話し合いを4回開催し、検討してきました。

日吉地区の状況を整理すると、中山道などの歴史を感じられる場所や豊かな自然、良好な地域コミュニティなど、良い所がたくさんあります。反面、若い人や子どもが少なかったり、就労場所がなかったりなど、もう少し工夫や努力をしてもっと良いまちにしていきたい、と思うことも、まだまだたくさんあることが分かりました。

私たちは、いくつかある課題の中から、『3つの重点課題』を導き出し、地区の10年後の将来像を『自然と歴史が豊かで老人が元気で子どもが喜びリターンが出来るまち』と定め、課題解決に向けた具体的な取り組みを、市民目線で話し合い、検討し、『3つの提案』として取りまとめました。

私たちは、今後この提案の中から、市民と行政が協力して、できることから順に実現をしていき、日吉地区が日吉らしく、活気のあるまちになることを望んでいます。

自然と歴史が豊かで老人が元気で
子どもが喜びUターンが出来るまち

重点課題

地域の結びつき

農業・産業
(これからの対策)

老人対策

取り組みの方向性

日吉町を大きな
家族にしよう

若者が農業を
するまち

未来の生き方
余生の生き方

世代間の交流を深める

地域の絆を深める

農業の企業化

加工品の販売

地域ブランドづくり

集いの場づくり

移動手段の確保

日吉地区の『地域の結びつき』を強化してよりよいまちにしていけるために・・・

提案 1

日吉町を大きな家族にしよう

提案の概要

目的	老人と子どものふれあいを深め、世代間の交流を促す。
内容	【世代間の交流を深める】
	町民運動会、お祭り等を開催する。 高齢者の知識を活かした『カルチャー教室』を開く。 若い世代の結びつきを強くする。 コミュニティセンター等を積極的に利用する。
内容	【地域の絆を深める】
	中山道をはじめ、地域資源と言えるものの良さを、地域みんなが再認識し共有する。

協働の考え方

市民の役割	住民がカルチャースクール等を企画、提案する。(住民の声を行政に届ける) 知識や技能のある人に講師を依頼する。
行政の役割	住民へのPRを行う。 コミュニティセンター等を開放する。 行政無線を利用する。
連携方法	まちづくり推進協議会が橋渡しをする。

日吉地区の『農業・産業』を担っていくために・・・

提案 2

若者が農業をするまち

提案の概要

目的	耕作放棄地を無くし、農業・酪農を産業とした企業化で若者が中心となるまちにしていける。
内容	【農業の企業化】
	企業化により農業・酪農を経営する。
	【加工品の販売】
内容	農産物、酪農品の加工及び販売をする。
	【地域ブランドづくり】
内容	日吉地区の産物・加工品のブランド化をはかる。

協働の考え方

市民の役割	農地の利用に対して協力する。
行政の役割	農地のとりまとめ(集約化)を行う。 地域企業への協力を検討する。
連携方法	住民・行政・企業(トライアングル)で連携する。

日吉地区で『老人対策』を行って住みやすいまちにしていくために・・・

提案3

未来の生き方 (地域のグループホーム、介護施設)

余生の生き方 (各区にある集会場を使って楽しむ、話せる場所づくり)

提案の概要

目的	扶助的余生、有意義な余生を送るための対策として、手遅れにならないよう、老後の対策を元気な間に実施する。
内容	<p>【集いの場づくり】</p> <p>それぞれの生き方を共有できる人の集まる場所をつくる。 楽しみ方やいろいろなパターンで集まる場所をつくり提供する。 元気なうちでなく、援助が必要となったときの場所づくり。</p> <p>【移動手段の確保】</p> <p>通院、買物などのための移動手段を確保する。</p>

協働の考え方

市民の役割	<p>長寿会等の集まりの強化・作成、人集めに協力する。 会合を開催するための援助を行う。(老人ではできないところ) 地域の人のつながりをいかす・強める。 老人を見守る体制をつくる。 世代を超えたつながりを強める。(伝えていく)</p>
行政の役割	<p>施設整備や移動手段確保のための支援。(法運用の改善など) 地域の老人世帯の状況把握、(小グループでの)老人会などの組織化に向けて支援する。</p>
連携方法	<p>住民と行政同士の情報提供、共有をはかる。 小グループでの老人会のような組織を維持しながら、地域リーダーの育成を促す。</p>

～ 釜戸地区からの提案～

釜戸地区

「健康・長寿のまち釜戸」

メンバー

【リーダー】	【サブリーダー】	
水野 利之	伊藤 晴規	三宅 政臣
河野 治之	平野 幸彦	伊藤 隆博
溝口 勝義	鈴木 芳子	後藤 忠則
土本 一正	渡邊 和子	中村 美香



私たちは、釜戸地区の将来のまちづくりについて、ワークショップによる話し合いを4回開催し、検討してきました。

釜戸地区の状況を整理すると、地区にはJR釜戸駅もあり国道19号も通っており交通の便がよく、竜吟峡や屏風山、土岐川といった自然も豊富で、住民の絆も強いなど、良い所がたくさんあります。反面、まちの高齢化が進んでいたり、道路での事故が多く危険であったり、排他的な面があったりなど、もう少し工夫や努力をすれば、もっと住みやすくなると思うことも、たくさんあることが分かりました。

私たちは、いくつかある課題の中から、『3つの重点課題』を導き出し、地区の10年後の将来像を『健康・長寿のまち釜戸』と定め、課題解決に向けた具体的な取り組みを、市民目線で話し合い、検討し、『3つの提案』として取りまとめました。

私たちは、今後この提案の中から、市民と行政が協力して、できることから順に実現していき、釜戸地区が釜戸らしく、活気のあるまちになることを望んでいます。

健康・長寿のまち釜戸

重点課題

釜戸駅の活用
(交通の便が良い)

自然が豊か

健康長寿
(高齢化)

取り組みの方向性

釜戸駅の
存続と発展

自然と共生する
地域づくり

高齢者の
生きがいづくり

駅施設の活用

駅周辺(徒歩5分圏
を目安に)の利用

駅をテーマにした
取組

地域の魅力を再発
見する

地域の魅力を活か
す

地域の資源を守る

人材の拡充

場づくりの工夫

釜戸地区にある『釜戸駅を活用』してより住みやすいまちにしていくために・・・

提案 1

釜戸駅の存続と発展

提案の概要

目的	釜戸駅の乗降客の増大と駅施設を総合的に活用する。
内容	【駅施設の活用】 駅施設の管理などに協力する。 健康サイクルを設置する。(レンタサイクルの仕組みで、健康増進のための自転車利用を促す)
	【駅周辺(徒歩5分圏を目安に)の利用】 オーナー農園を開設する。 駐車を整備する。
	【駅をテーマにした取組】 駅名の提案を行う。(釜戸健康駅...等) 「駅の日」を設定し、奉仕作業やフリーマーケットを開催する。 鉄道をテーマにしたイベント(写真展等)を開催する。

協働の考え方

市民の役割	駅の利用とともに、駅の管理や整備に参加、協力する。 駅活用にあたっての地域要望を集める。 地主等のご協力を得て、駅周辺で活用できる土地を生み出す。 イベント開催時にかかる地域住民の理解と協力を得る。
行政の役割	イベント等のPRに対して協力する。(市ホームページの活用等) 駅活用にあたって、JRに交渉する。
連携方法	地域住民と行政との共通認識(情報共有)を得る。

釜戸地区にある『豊かな自然』を活かしてよりよくしていくために・・・

提案 2

自然と共生する地域づくり

提案の概要

目的	次世代にも継承していくため、地域の自然環境の保護や活用を図る。
内容	【地域の魅力を再発見する】 自然ふれあい館と竜吟峡中心の遊学交流を増進させる。 ふるさと再発見ウォークを開催する。(あわせて屏風山歩道等の整備も行う)
	【地域の魅力を活かす】 都市住民もまきこんで里山土岐川散策ツアーを開催する。
	【地域の資源を守る】 人工林の間伐等の推進や、対策(管理の方法)について検討する。

協働の考え方

市民の役割	住民が積極的に取組に参加する。
行政の役割	市の情報媒体を活用して、情報の発信やPR活動を行う。 活動に対する支援や、(ふれあい館管理のための)制度紹介、アドバイス、仕組みづくりを行う。
連携方法	地域住民と行政との共通認識(情報共有)を得る。

釜戸地区の『高齢化』の不安を解消していくために・・・

提案 3

高齢者の生きがいづくり

提案の概要

目的	子育て支援など、先輩の経験・知恵が享受できるような環境をつくり、あわせて高齢者の居場所を確保する。
内容	【人材の拡充】 地区版の人材バンクなどの拡充により、生きがい対策を創設する。(便利屋含む) 互助精神に基づき、有償ボランティアを任用する。その際の工夫としてポイント制の導入などを検討する。
	【場づくりの工夫】 高齢者に見合った働く場所(子育て、草刈り、庭清掃、買い物サポート、家事等々)を開拓する。 需要と供給の橋渡しをするサービスセンター機能を設置する。

協働の考え方

市民の役割	健康の維持による自立・自助。
行政の役割	自立・自助ができるための支援策を検討する。
連携方法	地域住民と行政との情報共有と共通認識をはかる。 住民の参加を拡大していくための策を工夫する。

～ 大湫地区からの提案～

大湫地区

「自然と共に安全で住み続けられる大湫宿」

メンバー

【リーダー】	【サブリーダー】	
小栗 司	板橋 仁晃	三輪 勝彦
伊藤 勝佑	足立 亘	桐井 義弘
奥村 義二	大竹 悦子	吉岡 あかね
北澤 健次	安田 清和	



私たちは、大湫地区の将来のまちづくりについて、ワークショップによる話し合いを4回開催し、検討してきました。

大湫地区の状況を整理すると、人のつながりが深く人情があったり、中山道に代表される歴史があったり、豊かな自然があったりなど、良い所はたくさんあります。反面、道路や公共交通が不便であったり、若い人や子どもが少なかったりなど、もう少し工夫や努力をしてもっと良いまちにしていきたい、と思うことも、まだまだたくさんあることが分かりました。

私たちは、いくつかある課題の中から、『3つの重点課題』を導き出し、地区の10年後の将来像を『自然と共に安全で住み続けられる大湫宿』と定め、課題解決に向けた具体的な取り組みを、市民目線で話し合い、検討し、『3つの提案』として取りまとめました。

私たちは、今後この提案の中から、市民と行政が大湫地区の特徴をよく考え、協力して、できることから順に実現をしていき、大湫地区が大湫らしく、活気のあるまちになることを望んでいます。

自然と共に安全で住み続けられる大湫宿

重点課題

若者が欲しい

人情がある

移動が不便

取り組みの方向性

集え若者「ものづくりの里大湫」

情報発信する

調査・斡旋する

交流する

憩いの宅老所(子どもたちとの共同施設)

集いの場づくり

交流の場づくり

移動手段の確保

公共交通を利用する

大湫地区に『若者』を呼び込んでより住みやすいまちにしていくために・・・

提案 1

集え若者「ものづくりの里大湫」

提案の概要

目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・山上に拓かれた宿場町大湫は、御釈迦様の手のひらの様な特殊な地形をしており、自然や歴史的遺産も多く、繊細なものづくりを志向する人達には大きな魅力を提供している。 ・これまでも、転入者には陶芸家・木工家などものづくりを生業とする人達が集まってくる傾向にある。 ・少子高齢化とともに人口が減少し地域を担うべきマンパワーが不足してきた現状を打破するため、様々なジャンルの若手芸術家を積極的に誘致し、個性と魅力のあるまちづくりを進める。
内 容	<p>【情報発信する】</p> <p>宿場町の古民家・旧小学校校舎・花の森の野外空間等を活用し、内外の芸術家による企画作品展を継続的に開催し、情報を発信する。</p> <p>行政機関にも公的窓口を設け、Iターン・Uターン希望者等について、全国からの情報の収集と発信を行う。</p> <p>【調査・斡旋する】</p> <p>コミュニティ推進協議会に地元窓口を設け、転入希望者に、貸付や売却等が可能な物件の調査・斡旋を行う。</p> <p>【交流する】</p> <p>地元に着した芸術家は、常設・臨時を含め交流の場づくりに努める。</p>

協働の考え方

市民の役割	ものづくりを契機とする交流の場に積極的に参加し、ともに楽しむ。 不在地主を含め、住民は空き家や遊休地の提供に努める。
行政の役割	行政の情報管理能力をフルに活用し、活動の推進を支える。 国・県等、支援制度を精査し、活動の活性化と転入者の定住にいかす。
連携方法	住民と行政のホットラインを設けるとともに、定期的に協議の場を持つ。

大湫地区に『若者』を呼び込み、地域の人情が息づいた、住みやすいまちにしていくために・・・

提案 2

憩いの宅老所(子どもたちとの共同施設)

提案の概要

目的	高齢者が集まって自由に過ごせる場所、子どもも預けられる場所をつくり、高齢者が、子どもたちと一緒に遊び、子どもは高齢者から学び、一緒になって元気をもらえるような場所にする
内容	<p>【集いの場づくり】</p> <p>お昼には皆で一緒に食事を作って食べ、食後はゆっくりくつろぎ、世間話に花を咲かせられるような場をつくる。</p> <p>子どもたちが自由に遊びに来たり、幼稚園帰りの子どもを親が迎えに来るまで預かったりする。(子育て支援の一助にもなる)</p> <p>【交流の場づくり】</p> <p>菜園をつくる。</p> <p>子どもの情操教育・交流の場にする。</p>

協働の考え方

市民(地域)の役割	食事づくりなどを通じて、宅老所運営に協力する。
行政の役割	施設と各家をつなぐ送迎手段を確保する。 移動中の事故防止や事故対策などの支援を行う。
連携方法	有償でもいいのでボランティアなどにも協力を要請する。 学校給食からの食事提供などを検討する。

大湫地区の『不便な移動』を解消していくために・・・

提案 3

移動手段の確保

提案の概要

目的	地域内外を結ぶ交通手段を維持し、地域の生活利便性を確保していく。
内容	<p>【公共交通を利用する】</p> <p>子どもや高齢者だけでなく、地域のみならず、コミュニティバスやデマンドバスなどの公共交通を利用する。</p>

協働の考え方

市民の役割	コミュニティバスなどをできるだけ利用する。 運行ルートや本数などの改善要望を行う。
行政の役割	運行ルート、本数などの改善を検討する。
連携方法	住民の利用ニーズと行政の運行情報などの双方の情報交換と理解により、より良い運行のあり方を検討する。